津山高校
第26号

県南クラブ

2021年２月25日発行
津山高等学校同窓会
岡山県南支部会報

津山高校同窓会岡山県南支部の令和元年度総会・懇親会が令和元年10月20日、アークホテル岡山（岡山市北区下石井）で開かれました。

支部の会員ら約90人が出席。平成29・30年度の事業報告、収支決算報告が原案通り承認されました。任期満了に伴う役員改選も行われ、支部長には昭和45年卒の松本健五氏を再任しました。

総会に続き、倉敷美観地区にある「語らい座 大原本邸」館長の山下陽子さん（昭和50年卒）に「語らい座 大原本邸～ catalyzer(触媒)を目指して～」と題し記念講演をしていただきました。

この後、懇親会に移り、津山の思い出話などで大いに盛り上がりました。

今年は総会の年ですが、新型コロナの影響で開催が危ぶまれております。改めて案内をさせていただくことになりますが、開催の折にはぜひご参加をお願いします。

写真はいずれも令和元年度総会・懇親会

随想

「コロナ」

支部長　松本　健五

時下、県南支部同窓の皆様おかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

県南支部の会報「県南クラブ」も今回で第26号となりました。令和元年11月に中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症は、年が明けた令和２年１月15日に国内で初めて陽性者が確認されるなど、瞬く間に世界的な感染拡大を引き起こし、日常生活も一変しました。令和２年はコロナにあけコロナに暮れる１年になったと言っていいと思います。令和２年度は新型コロナウイルス感染症のため県南支部の催しもすべての活動が休止となりました。従来は８月頃が県南クラブの発刊予定でしたが今年度はこの時期に延期となりました。

さて県南支部について振り返ってみます。津山高校同窓会県南支部は岡山県南部10市（岡山、倉敷、浅口、玉野、笠岡、井原、総社、備前、瀬戸内、赤磐）と５町（和気、早島、里庄、矢掛、吉備中央）に在住する約2500人の会員で構成しています。総会は隔年で、総会のない年はビアパーティーを開き、会員同士の親睦を深めています。平成30年９月のビアパーティーの出席者は101名でした。令和元年10月総会では役員改選が行われ、支部長に松本健五（高21期）が再任されました。支部の主な活動としては支部会報「県南クラブ」を年１回発行し、会員に郵送。「随想」や同窓会情報などを掲載しています。当支部のホームページで創刊号から現在まで全ての会報が閲覧できるようになっております。最近の活動は、新着情報に掲載されています。時間があればぜひご一読よろしくお願いいたします。検索で「岡山県立津山高等学校同窓会岡山県南支部」で見られると思います。

現在「ウィズコロナ」とか「アフターコロナ」という議論がなされています。いずれにせよこの感染症が一日でも早く終息し、支部活動が再開されることを期待しています。

最後になりましたが、会員皆様の無事息災と支部の発展を祈念しご挨拶とさせていただきます。

（まつもと・けんご。昭和45年卒。岡山市立総合医療センター理事長・岡山市立市民病院院長。美作市・大原中学校出身。岡山市北区在住）

津山城天守閣取り壊しの悲しみ

国立病院機構岩国医療センター名誉院長　河野　宏

徳川秀忠の恩賞により美作の地18万6500石を与えられた森忠政は1616年に鶴山の地に築城し、この地を津山、城を津山城と名付けている。しかし、森家の嫡子がなくなった時点で改易され、1697年に松平宣富が津山藩に移り、明治の廃藩まで松平家が津山城主として続いた。森忠政が築城した津山城は廃藩置県により1874年（明治７年）に天守閣や本丸が取り壊され城址となる。

1936年（昭和11年）４月姫津線（ひめつせん）全通記念博覧会が鶴山公園を会場として開催され、その機会に天守閣が再建された。この天守閣は初代の天守閣ほど立派なものではなかったらしいが、当時の天守閣の写真はあまりなく、ただ津山郷土博物館が編集した「古い津山の写真展」というモノクロの写真集の中に一枚、昭和11年に比較的近くから撮られた天守閣の写真を見つけたが、その範囲では中々立派な天守閣に見えたし、市民は津山のシンボルとして心に刻んでいた。私も小・中学生の頃、遠足や旅行などで津山を離れ、再び津山に帰る時、この天守閣が見えると“ああ津山に帰ったな”という思いが強かったことを記憶している。市民の皆さんも同じ思いを抱いたことだろうと思う。しかしその天守閣も今は見られない。

多分、津山高校昭和35年卒位より若い世代の人たちはこの天守閣のことは全く知らないだろうと思う。私はこの天守閣が破壊された日のことを記憶しているので、そのことを思い出しながら記載してみよう。

私が旧制津山中学（現津山高校）一年生の時、すでに太平洋戦争も敗戦の兆候がみえ始めた頃であるが、その年1944年（昭和19年）３月に「学徒動員実施要項」が発令され、今後１年間、中学校以上の生徒、学生は常時勤労に出動することになった。私たちより上級生は、柵原鉱山や三井造船などで勤労させられることになったが、私たち一年生は主に農家での勤労奉仕をすることになった。授業は殆どなく、毎日のように、近くは志戸部、遠くは津山の西南、平福などの農家で農作業をしたり、沼の辺りにあった小山を開墾してさつまいもなどの野菜を植える作業をしていた。

1945年（昭和20年）８月14日にも沼から志戸部にかけて連なる小山で、逼迫していた軍用の油を作るために松根を掘っていた。その時、突然、南の方でドーンという大きな音がしたので振り返って見ると、津山城の辺りに黄土色の土煙がもうもうと上がっているではないか。やがてそれが静まってくると、その辺りに遠望されていた津山城の天守閣の姿が忽然となくなっており、呆然とした。後で分かったことであるが、米軍の空襲の目標になるのを恐れて取り壊されたのである。事実、６月29日には岡山が空襲されほぼ灰燼に帰したが、岡山の次に県では人口の多かった津山が空襲されるのではないかと市民は恐れていた。しかし天守閣が壊されたのは皮肉にも、正に終戦の前日であった。

最近になって、あの津山城の破壊が本当に８月14日、終戦の前日だったのか気にかかりだした。終戦の前日とはあまりにも出来すぎた皮肉であり、悲劇でもある。取りあえず津山郷土博物館にメールを送って尋ねてみるが記録がないとのこと。思い立って津山高校百年史（1995年発行）を隈無く調べた。ところがその「上巻」402ページには“津山城址の天守閣も敵機の目標になるという理由で取り壊されたが、皮肉にもその翌日終戦となった”とある。また同誌の707ページの年表には“1945年８月２日家屋疎開のため、津山城天守閣（博覧会用）・津山市公会堂など取り壊す”となっている。

結局、天守閣の取り壊しに取りかかったのが８月２日で天守閣が完全に取り壊されたのが８月14日だろう。私の記憶に間違いはなかったことになる。

最近、津山に帰っても2004年に再現された、立派な備中櫓の白壁が鮮やかに眺望されるが、昔の天守閣のように聳えたつ感覚にはほど遠い。天守閣の再々建の話題も時にはでるようであるが、実現には金銭的な問題だけではなく、最近では国からの再建についての厳しい条件も決められ、一層困難になっている。

私には津山城の天守閣を再び見る夢はもうない。

（こうの・ひろし。津山市立男子尋常高等小学校卒、津山高校昭和25年卒、岡山市在住）

随想

たかが映画、されど映画

副支部長　片山　淑雄

趣味は何ですか、と尋ねられたら、「映画」としか答えようがない人生になってしまっている。

なぜ好きになったのか。直接的な理由は思い浮かばない。が、一番大きかったのは大学で東京へ行ったことだと思う。“田舎育ち”が良い？　方向に働いたと感謝せねばならないのだろう。

旧久米町の農村部、映画とは縁の少ない環境で育った。年に何回か小学校の講堂などで映画上映会があった。小学校時代、記憶にあるのが、野村芳太郎監督の「張込み」（1958年）。原作は松本清張（当然、題名などは後年知ることとなる）。

東京で発生した強盗殺人事件の共犯者が恋人の元に行くと判断し、既に人妻となり暮らす佐賀へ２人の刑事が飛ぶ。彼女の自宅前にある旅館の２階で張り込み、犯人が現れるのを待つ。彼女が外出すれば尾行する展開だ。

ラストシーンの佐賀駅で東京に帰る急行列車を待つ際、東京までの停車駅がアナウンスされる。倉敷と岡山の駅名が出たのだけは、いまでも良く覚えている。野村作品では「砂の器」（1974年）の評価が高い。私は「張込み」がベストと思う。

父親が単身赴任していた。父が住む勝央町や旧美作町へ行き、勝間田駅前や、林野の駅前と栄町にあった映画館に行ったのも小学校時代の思い出である。

中学時代は内藤洋子が好きで「伊豆の踊子」（1967年）などを見た。踊子はこれまで６回映画化。田中絹代版は未見だが、内藤版が一番気に入っている。

中学のときは「東京オリンピック」（1965年）、「男と女」（1966年）が印象に残る。「男と女」はストーリーがあまり理解できず、音楽だけが頭に焼き付いた。監督クロード・ルルーシュ、主演アヌーク・エーメ、ジャン＝ルイ・トランティニャンの同じ組み合わせで53年後に撮った「男と女　人生最良の日々」で、昨年３月ノスタルジーに浸った。

津山高校では、社会部に入った。社会部と言っても、“社研”ではなく、実態は歴史地理部で、社会科が好きだったからという単純な理由による。

映画部は部室が隣にあり、同期も個性的な顔ぶれだった。確か、１年の文化祭で、同じクラスの女子がヒロインになった８ミリ作品が上映され、音楽は、あのジョアンナ・シムカス主演の「冒険者たち」（1967年）のテーマ曲。センスの良さに感心させられてしまった。

高校時代は本館の講堂で上映された「戦艦ポチョムキン」（1925年）に尽きる。２年の世界史はＥ先生に教わった。授業中、ポチョムキンの話を延々され、有名な「オデッサの階段」シーンの解説は特に熱っぽかった。その上映会は３年時だったはず。完全に鳥肌が立った。（その後、Ｅ先生は県南の私立高校に移られ、組合の書記長をされていたのにはビックリさせられた）

あと、明宝で見たオードリー・ヘプバーンの「いつも２人で」（1967年）。倦怠期を迎えた夫婦の現在と過去を６つの時間軸で描いている。内容についていけず、ギブアップした。後年再見し、なるほどとは思ったが、そこまで複雑にする必要があるのかという感は否めない。

ここまで書いた段階で、紙幅が尽きつつあり、肝心の東京編に入らないままに終わるようになってしまった。

東京では「これでもか」というくらい、映画が上映される。追われるように見たという感じだった。楽しかったものの、苦しくもあった。それでも封切りの何分の一かを見たにすぎない。池袋・文芸座のオールナイトにもよく行った。

デビット・リーンの「ライアンの娘」（1970年）を有楽座の大スクリーンで見たアイルランドの海岸には圧倒された。淀川長治先生は「リーンの海ですね」と評した。ＮＨＫの朝ドラ「エール」のタイトルバックに出てくる海岸の何倍ものスケールだった。

これまで映画は見てきたものの、粗雑な性格のため、ちゃんとしたメモを残していない。記憶は極めてあいまい。悔やまれる。

いまは、コロナで映画館から少し足が遠のいている。それでも「お楽しみはこれからだ！」と自分を鼓舞している。

（かたやま・よしお。昭和45年卒）

田舎暮らしを始めて！

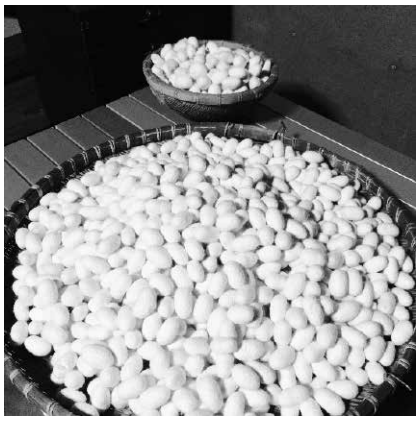
黒瀬　正義

岡山県南支部の皆様には、ご健勝にお過ごしのこととお慶びもうしあげます。

二十数年前、当時の県南支部の岡本貴夫支部長、小野玉枝、有本正、田寺秀夫、中村道男、小野温子副支部長、高岸隆郎幹事長はじめ諸先輩方が、県南支部の再興に尽力されている中、微力ながらそのお手伝いをさせて頂きました。同窓会員の確認調査、八つの同好会の立ち上げ、その後会報の発刊に末席で加わえさせて頂き、貴重な経験をさせて頂きました。私は絵画クラブに属し、福島先生のご指導のもと、月一の岡西公民館での静物画、野外での風景画等、その時その場の皆様との交流が克明に思い出され、懐かしさで一杯です。各年の総会も回重ねるごとに多くの参加者を迎えることができ、支部活動は活況を呈するに至りました。

事務局を私の事務所に置いていたため、諸先輩方のお立ち寄りも多く、親しくお付き合い頂くと共に、人生の師として多くのご指導を賜り、その後の私の人生にとって、大変有意義なものとなっております。物忘れの激しさを増す昨今ですが、その当時の情景が走馬灯のように思い出され、懐かしく回想させられます。

ここ十数年、高齢の両親の世話、社業不振もあって、郷里津山（旧久米町）に生活基盤を移し、田舎暮らしをしております。両親とも長命で世を去り、今は、野山に囲まれ、自然豊かな実家で、日々草木との戦いをしながら、四季の移ろいを楽しみながら暮らしています。暮らしの中で長年生業としていたまちづくり（地域計画）の本性が現れ、何処の地方社会も抱える過疎化、高齢化、少子化、我が田舎もご多分に漏れず、多くの課題を抱えており、その対策に手を付けることに！田舎の景観を構成する農地は、高齢化による従事者不足により放置され、また、山の幸の宝庫・里山も整備することなく閉ざされ、竹が繁茂し、美しい田舎が変貌しつつあります。「農のある暮らし」をテーマに、稲作の大規模経営、農産物加工を手始めに、農業の振興を企てています。わが村（旧倭文村）は、桑村、近隣に錦織の地名を残し、古く養蚕によって潤っていました。現在、世界の生糸生産の80%は中国であり、その他インド、ベトナムで生産され、我が国は0.03%しか生産されていません。絹は外科手術での縫合糸として長く使われてきましたが、現代、その繭（まゆ）の高品質なたんぱく質（フェブロイン）が人口血管等再生医療材料としての研究が進んでおり、期待される農業生産物として、その取り組みを始めています。未来農業への足がかりとして、30aの桑園を整備し、新芽を桑茶として収穫、春、秋の二季には小規模養蚕（2,500～3,000頭／人　※蚕は家畜として頭で数える）を行い、生産した繭から、もう一つタンパク質セリシンを抽出し、虫刺され痒み止め、化粧水として利用しています。また、遊休公共施設をお借りして、津山地域への来訪者に安価で宿泊をして頂く自炊型宿泊施設を運営し、過疎のむらに6,000人／年のお客様をお迎えし利用頂いております。里山を整備し、年２回の竹林コンサート（コロナ禍で休止中）では、多くの老若男女が集い、静かな村もその一日は、エレキサウンドが響き渡り、賑わいます。



こうして田舎の暮らしは、私の第二の人生として活力と喜びを与えてくれています。これも何はともあれ健康であるがために成せる事、日々この健康に感謝・感謝です。

（くろせ・せいぎ。昭和46年卒）

随想

「富士登山の勧め」

倉敷成人病センター病院長　梅川　康弘

もうずいぶん前のことになるが、家族で富士山に登ったことがある。ある時発せられた「富士山に登ってみたい」という娘の一言が発端である。当時、実家を離れていた社会人の長男、学生の次男に聞いてみると二人とも登ると言い、はじめは「私はやめておく」と言っていた妻も結局登ることになった。日程は全員の都合がつくお盆前。軽い気持ちでツアーを計画することにした。

富士登山についてインターネットで調べてみるとなかなか大変なことであることが分かった。「富士山を甘く見るな」、「まずは1000m級、2000m級の登山をしてみよう」、「周到な準備が必要」、「十分な時間をかけて登ろう、弾丸登山禁止」等々、軽はずみの登山を戒めている。

まずは装備が大事と書いてある。富士山は天候によって暑かったり寒かったり、急な雨も珍しくない。服は通気性の良いもの、靴は足首まで覆えるしっかりした材質のもの、リュックももちろん防水性で肩に負担がかからないもの、トレッキングストックは絶対必要…。これらを全部そろえるとかなりの出費、さてどうするか。

調べてみると装備・服装についてはレンタルですべてが揃えられることが分かった。それも安価で一級品。近所を散歩するような格好で現地まで行けば、長年登山をしている上級者の装備に着替えることができる。

仮眠をとらない弾丸登山は無謀と書いてあったので、山小屋の確保は必須だ。６月になって山小屋の予約を取ろうとしたらすでにいっぱい、なんとか５合目と８合目の山小屋が確保できた。

さて、そもそも現地まではどうやって行くのか。最寄りの駅までは新幹線でそこから路線バス？　一度東京まで行ってから電車か高速バス？　岡山発のバスツアーもあったが、夜行バスで朝に富士山５合目に着いて、昼前から登山開始となっている。バスで眠れなかったらきつそうだ。

計画を練っていくうちに家族それぞれが登山のあと温泉でゆっくりしたい、富士急ハイランドのジェットコースターに乗りたい、SNSで人気の抹茶アイス（静岡市）が食べたい。いや浜松餃子は外せないでしょう、など次々に希望が出て、結局自由度の高い自家用車で行くことになった。私はドライブが趣味というわけではないが、長距離を運転してもあまり苦痛ではない。そういえば長崎ハウステンボスまで車で行ったこともあったなぁ。

富士山が世界遺産に登録された翌年（2014年）８月某日の朝、倉敷の自宅を出発。お盆の渋滞に巻き込まれつつ富士山のふもとに車を止めて路線バスで５合目へ向かい（登山シーズン中は自家用車の乗り入れ禁止となっている）、着いたのは午後９時ごろ。５合目でも空気が薄いらしく、重い荷物を持って早足で歩くとすぐに息が切れる。予約していた宿泊施設に１泊して朝から準備、午前11時頃張り切って登山開始。ところが６合目に到着する前にはすでにへとへとに。このあたりで天候は雨模様になったが、体力のない中年にとっては快晴よりはましだっただろう。休みながら、ゆっくりゆっくり登っていき８合目の山小屋に着いたのは午後４時ごろ。雨は上がっていた。夕ごはんは定番のカレーライス。さっさと就寝のはずだったが、両隣は知らない登山客。熟睡できるわけが無い。山頂でご来光を見る予定だったが、強風のため夜間の登山ができず、山小屋前でご来光を拝む。苦労した後に見たご来光は本当に最高。ここまで全員で来ることができた幸運と健康に感謝した。ちなみに山小屋の方によると、雨上がりの日は空気が澄んできれいに見えるのだそう。雨も悪くなかったな。

一部のツアーの方々は帰りのバスの都合なのか、山頂まで行かずに下山していて気の毒だった。トータル７時間かけて山頂に到着、半端でない達成感があった。

しかし、問題は下山にあり。登山のゴールは登頂ではなく、下山なのだ。疲労からか年齢からか膝やつま先が痛くなり、かといって下山するしかなく、４時間かけて下山し富士登山を終えた。

ふもとの“ふじやま温泉”で疲れを癒し、翌日筋肉痛の足をひきずりながら富士急ハイランドでＦＵＪＩＹＡＭＡ、ド・ドドンパなど絶叫アトラクションを堪能。さらに静岡に１泊しておいしい抹茶アイスと浜松餃子を頂き帰路に着いた。

軽い気持ちで始まった富士登山は登るまでの準備も登山・下山も大変だったが、それに勝る感動があった。

皆さん、体力があるうちに、富士山に一度は登ってみて下さい。お勧めです。

（うめかわ・やすひろ。昭和53年卒）

随想

私の存在証明

山陽新聞社営業局プロジェクト推進室長　春木　香里

2020年６月、コロナ禍の中、32歳の長男が１冊の本を出した。母親が何十年も夢見た出版という偉業？をいともたやすく「ビジネス本」というジャンルで成し遂げた。たいした内容もなく売れ行きがよいわけでもないが「商業出版」したのだ。心からリスペクトし、この本に助けられた。

今から20年ほど前、専業主婦の私は児童文学を書きながら自分の名刺を持つことに憧れていた。いつか自分の名前の本が出て、坪田譲治文学賞とかにノミネートされ、肩書として名刺に受賞歴を書くことが夢だった。それがいかに難しいことかは、落選に次ぐ落選の積み重ねで悟った。「ならば今度は国家資格だ」と資格を取得することに変更した。国家資格なら名刺の肩書にできる。とにかく自分の存在証明がほしかった。睡眠時間を削り夜な夜な物語を紡ぎながら、歯科衛生士の学校に通い、夜はドラッグストアでアルバイトをして学費を稼いだ。資格を獲得したのは37歳。成績優秀で卒業したものの、なかなか採用してくれるところはなかった。何をするにも遅すぎるということはない。頭では理解していても、世の中にはいまだに年齢差別はあるのだ。ようやく歯科医院に勤めたが名刺を作ることもなく（そもそも歯科衛生士が名刺交換することはない）、石の上に３年経っても仕事に身が入らない。先生の顔色だけを見ながら失敗しないことだけを祈る毎日。資格は取れても、自分を生かせる場所が見つかるわけではないのだ。救いは創作活動だった。名刺に肩書という気負いはなくなり趣味で続けていた。

きっかけは岡山市の童話の最優秀賞受賞だった。山陽新聞社に寄稿を頼まれ、その縁がいろいろと繋がり、新社屋に「さん太ホール」ができる際に週に２日ほどでよいから受付をしてみないかとお誘いをいただいた。ここから人生が大きく変わった。雇う側も初めてのホール運営だから、上司も部下もマニュアルも前例もまったくない。貸し出し料金だけが決まっていた。あっという間にのめりこんだ。苦労して取得した国家資格を生かすより、ホールの稼働率をアップすることに生きがいを感じた。経験はないが年齢が役に立った。今まで普通に通過してきた子ども会、ＰＴＡ活動など地域のコミュニティ、ママ友、創作活動の同人誌の仲間たち、なんでも役に立つ。さん太ホールの稼働率は常に目標を超え、そのキャパでは物足りなくなり、３万人規模のイベントも立案し実行した。まさにイベント業が私の居場所だったのだ。

コロナ恐慌の到来!!今まで毎月のように開催していたのにことごとくイベントは中止。もちろんホールのスケジュールも真っ白。リモートが始まり、誰とも会わなくなり、メールを開けばキャンセル料のことばかり。人を集めることが任務だった私の存在はコロナ禍では悪のようで毎日、仕事を否定されている気がした。仲の良い飲食店はもちろん、イベントがなくなることで疲弊していくなじみの業者、追い込まれていく仲間たちが増えていった。自分の無力さになすすべもなく一時、コロナ鬱になりかけていた。

そんな落ち込む日々に長男の本が届いたのだ。そういえば、春先にラインで頼まれるままに子育ての頃をふり返り800文字程度つぶやいていた。原稿依頼も提出もラインという簡素なものだったが、出来上がった本には私の言葉が実名入りで活字になっていた。そして、いとも簡単に私の夢を成し遂げた息子からいろいろなことを教わることとなる。

サイン会も出版披露パーティも出来ない時期に本は売れないと出版社は発売延期を勧めたという。しかし、こんな時だから、コロナ禍の今だからメッセージを届けたいと強行したのだ。「やるか、すぐやるか」（春木開語録）の言葉通り。確かにコロナ鬱になっている場合じゃない、できること見つけなければ。終息を待っているだけではなにも動かない。

2020年、このコロナ禍だからできることがある。困っている人にパワーを届けるイベントが作れるはずと思考を変え、今しかできないイベントを立ち上げた。車から降りないでお弁当を買う、テイクアウトのイベント、「ドライブするー?」だ。結果、大成功！他県からも何件も問い合わせが来た。あちこちで同イベントの開催がなされている。

ずいぶん遠回りしたけれど、この仕事に出会い、くじけそうな時に息子の本に救われた。私の存在証明が見つかった。すべての過去には意味がある。何ひとつ無駄ではないと気付かせてもらったコロナの年もあと２か月ほど。悔いなき日々になるよう頑張っていこう。

（はるき・かおり。昭和56年卒）

随想

畏天敬人

副支部長　大野　順子

COVID-19による不安が世界を覆い、ほとんどの方が多かれ少なかれ、それまでの日常を変えなければならなくなったとお察しいたします。残念ながら、多くの諸外国と同じく我が国でも未だ収束の見通しが立たず、混乱が続くと思われます。同窓の皆様におかれましては、大きな影響なくお過ごしであることを祈るばかりです。

これまでの日常という失ったものがある一方で、このコロナ禍が与えてくれたこともあります。それは、自分や、自分を取り巻く環境に目を向け、世の中にあふれている情報の収集とその取捨選択を行い、じっくりと考える機会を与えてくれたことです。それにより、フクシマや辺野古の問題など、知ったつもりで知らなかったことがどれほど多かったかを知り、興味や関心が以前より広がり、深まりました。

国内において、科学的根拠に基づいた論理的な対策が示されないにもかかわらず大きな混乱に及ばないのは、前線に立つ医療従事者の使命感や責任感、そして国民の分別や生活習慣、元々風邪コロナウイルスに曝されていた地域性による免疫力の高さによるものと考えます。

国民の命を守ることが何よりも優先されるべきで、なぜ台湾やニュージーランドはうまく抑え込んだのか、学ぶべきことは学び、本質を正確に言える真の専門家の意見に真摯に耳を傾け、歴史に学ぶ必要性を思わずにいられません。そのようなことを思う中、カミュの著書“ペスト”の中の、ペストと闘う唯一の方法は“誠実さ”そして“自分の職務を果たすこと”という言葉に深く感銘を受けました。

また、子供たちの育ちに関わる仕事をする自身の日常に目を向けますと、スタッフはどのような状況であってもひたすら子供たちを見つめ、より良い育ちの一助となるよう粛々と努めており、彼らと過ごす一日一日が、とても価値あるものであり、学び多き場であることを改めて感じています。

私の仕事の場は主に、小児科・小児神経科を診療科目としたクリニックと、それに連携した、発達特性を持つ子供たちの療育（発達支援）を主とした事業所です。私の業務は、すべてのスタッフが、訪れる子供たちに対し持てる力を最大限発揮できるよう、様々な面でサポートすることとマネジメントです。

大学では薬学を学び、大学院では実験室に籠りひたすらPCR、DNA解析、遺伝子組み換えを行う、分子生物学にどっぷりの毎日でした。科学を追究すればするほど、その不思議さや尊さを実感を持って知り、“自然”に対して畏敬の念を抱かずにはいられませんでした。そのような学生時代でしたので、まさかこれほど人を相手とし、人を広く深く長く見ていく仕事をする未来が待っているとは、思いもよりませんでした。

また、子供の育ちに関われば関わるほど、彼らが私たちの先生であり、エネルギーを与えてくれる存在であることを知ります。子供たちがこの先、安心して自分らしく過ごせ、よろこびを見つけ、助けてくださいと声を出せる社会であってほしいと願ってやみません。

遡って、高校時代はと言いますと、数学の難しさと夏の暑さ冬の寒さが思い起こされます。当時、明治建築の本館はまだ現役で使われており、校内にある古墳とともに大きな存在感がありました。

帰宅部だった私は、因美線での汽車通学に多くの労力と時間を費やしていました。最も強く印象に残っているのは、作楽神社の宮司でもあった国語の福田先生が、津山高校の歴史や、例え今戦争が起きても授業に集中する心意気など、津高生としての心構えを授業の中で熱く語られていたことです。それらは私のありように大きく影響し、今でも心の拠り所の一つになっているように思います。

そして卒後四半世紀を過ぎた頃、総会幹事学年当番を経験したあたりから古きご縁が復活し、在学中以上に、同窓というただ一点の共通項により、学年を超えてご縁が広く繋がっていくようになり、それに助けられたり、ともに楽しい時間を過ごしたりと、個性豊かで素晴らしい先輩後輩に恵まれ、今になって母校のありがたさをしみじみ感じています。

母校の校訓である“畏天敬人”は、この言葉に出逢った15歳から、私の座右の銘です。津山高校で過ごした日々により得たものが私を形作り、これからもそれが私を支え続けます。

深く感謝し、与えられた日々に尽くしていきたいと思います。

（おおの・じゅんこ。昭和61年卒）

第26号 津山高校 県南クラブ

中学生にもわかる
放射線・放射能と原子力発電
安東　醇　著
（昭和29年卒）
通商産業研究社　発行
定価　本体 1,200円＋税

カイロプラクティック
行成治療院
院　長　**松下行成**
〒711-0933 倉敷市児島通生890-7
TEL（086）474-6785
黒明　東洋治（昭和33年卒）

ハート＆コミュニケーション
株式会社ソフィア
代表取締役　**全本親民**
（昭和35年卒）
〒708-0033 岡山県津山市河原町29番地3
TEL 0868-25-1000　FAX 0868-23-5800

ENEOS株式会社特約店
大内石油株式会社
代表取締役会長　**大内宏之**
（昭和37年卒）
本　社　岡山市北区御津金川　☎（086）724-0844
花尻ききょう町営業所　☎（086）254-2030　セルフ岡山御津S.S.　☎（086）724-1181
築港営業所　☎（086）264-2520　金川営業所　☎（086）724-0069
二軒茶屋営業所　☎（086）294-2304　ENEOSでんき　☎（086）724-0844

アクト設備株式会社
代表取締役　**保住長男**（昭和38年卒）
本　社／〒703-8221 岡山市中区長岡468番地1
TEL（086）279-7677　FAX（086）279-7887
津山出張所／〒708-0052 津山市田町119番地11
TEL（0868）22-8505　FAX（0868）22-8506
営業内容
◆空気調和設備・販売・設計・施工・管理◆ビル設備総合メンテナンス
◆赤水、錆、スケールの除去と防錆装置・設計・施工
◆建設業許可岡山県知事 許可（般19）第15201号
管工事業・電気工事業・消防施設工事業

片山淑雄
（昭和45年卒）

クリエイティブリンク株式会社
代表取締役　**戸田　豊**
（昭和45年卒）

地方独立行政法人
岡山市立総合医療センター理事長
岡山市立市民病院院長
松本健五
（昭和45年卒）

水と取り組む・実績と信用
上下水道用資材総合取扱店・上下水道設計施工
株式会社佐藤管材工業
代表取締役　**佐藤三平**（昭和46年卒）
〒701-0165 岡山市北区大内田830-2
TEL（086）292-5311㈹　FAX（086）292-5188

SYSTEM FRONTIER
株式会社システムフロンティア
代表取締役　**永禮一平**
（昭和46年卒）
〒700-0942 岡山市南区豊成2丁目7番16号
TEL（086）264-0326　FAX（086）264-0326
E-mail：nagare@s-frontier.co.jp
URL：http://www.s-frontier.co.jp/

岡山中央法律事務所
元検事
弁護士　**板垣和彦**
（昭和48年卒）
〒700-0821 岡山市北区中山下1-9-1 山陽アルファ中山下ビル6階
TEL（086）212-2120　FAX（086）212-2130
URL　http://www.okachulaw.com/
E-mail　itagaki@okachulaw.com

国税局・税務署で「相続税」を担当
財産評価・相続対策・相続税申告
岡部正晴税理士事務所
税理士　**岡部正晴**（昭和48年卒）
〒710-1102 倉敷市茶屋町早沖325
携帯　090-6436-5327
TEL（086）436-8662　FAX（086）428-0532
E-mail：okabe01114@yahoo.co.jp

人と企業を大切に！頑張る中小企業の応援団
公益財団法人
岡山県産業振興財団
専務理事　**長森定好**
（昭和50年卒）
〒701-1221 岡山市北区芳賀5301（テクノサポート岡山）
TEL（086）286-9664

―倉敷美観地区でフルーツと出会う―
くらしき桃子
総本店／倉敷本店／倉敷中央店
旬のフルーツをふんだんに使ったスイーツとお土産をご用意しております。
くらしき桃子　検索

水と空気を管理する
W陽技研株式会社
代表取締役社長　**井上沙緒**（昭和53年卒）
空気調和、給排水衛生設備工事　設計施工
設備設計一級建築士事務所
本　社／〒700-0941 岡山市北区青江4丁目8番1号
TEL 086-231-0248　FAX 086-224-4765
http://www.sanyo-giken.co.jp
倉敷営業所／倉敷市北畝2丁目17番27号

（株）オーノ
児童デイサービス・放課後等デイサービス
（ぐるぐるめろん島・ふるーつ村・もりもりめろん広場・おれんじ村）
日中一時支援　（まーぶるの森）
特定相談支援・障害児相談支援
保育所等訪問支援
（医）大野はぐくみクリニック（旧　大野小児科医院）
（株）オーノ 代表取締役／（医）大野はぐくみクリニック 理事
大野順子（昭和61年卒・旧姓 只友）
〒700-0026 岡山市北区奉還町1-2-11
TEL（086）254-7777
melonjima.net　o-hagukumi.net

税理士法人　石井会計
代表社員 税理士
齊藤司幸（昭和61年卒）
〒700-0975 岡山市北区今8丁目11-10
TEL（086）201-1211　FAX（086）201-1215
URL：http://www.ishii-cpa.com
E-mail：ishiicpa@mx4.et.tiki.ne.jp

今号の発行に際しましては、竹内宏器様（昭和40年卒）、山下昌英様（昭和50年卒）、沼元昇様（昭和52年卒）からもご芳志を賜りました。深く感謝申し上げます。

活躍する県南支部会員

株式会社中国銀行　**山縣 正和** さん

第41期の山縣正和と申します。高校時代は部活のソフトテニスに熱中、平成２年に卒業、鶴山館で４年間の学生寮生活を送りました。卒業と同時に帰岡し、現在、中国銀行で執行役員総合企画部長を務めております。

銀行に入ってもうじき26年になりますが、業界を取り巻く環境は目まぐるしく変わりました。入行当時は不良債権問題、山一証券や拓銀をはじめとした金融機関の倒産、都市銀行の相次ぐ合併によるメガバンクの誕生など業界は大きく揺れ動きました。橋本内閣による金融ビッグバンでの規制緩和の進展、リーマンショック、最近ではマイナス金利の導入、フィンテックの台頭、そして今、地銀の数が多過ぎると話題になるなど常に世間をお騒がせしている状況です。

激動の環境の中で、地域貢献をしたいという当初の思いも徐々に薄れ、プロダクトアウト的な発想での営業や業務を行っていたというのが正直な実感です。

しかし、人口減少、環境問題など足元の厳しい経営環境を踏まえると、これまでの営業スタイルはサステナブルではありません。営業基盤･環境の維持、発展に本気で取り組まなければならないという考えで、今年の４月から始めた新しい中期経営計画における５つの主要戦略の柱として、①地方創生・ＳＤＧｓの取組強化、②お客さま本位の営業の深化を掲げることとなりました。

この地元岡山も例外ではなく、地域の持続可能性の維持､発展なくして､当行の発展はあり得ません。地域、顧客のために何ができるかという原点に立ち返って考えた結果です。

「石橋を叩いても渡らない中国銀行」から「地域とお客さまのためなら失敗を恐れず、思い切ってチャレンジする中国銀行」へ。創業支援の岡山イノベーションプロジェクト、晴れフレ岡山というクラウドファンディングの運営など、中国銀行らしくない（？）取組みをこれからも積極的に行い、真の意味での地域に根ざした運営に貢献する所存です。

中国銀行のこれからの進化（？）に乞うご期待ください。

（やまがた・まさかず。平成２年卒）

いきいき 同窓生

ピープルソフトウェア株式会社　**横道 彰** さん

同窓生のみなさま、恩師のみなさま、大変ご無沙汰しております。

現在、私は倉敷市に本社のあるIT企業の代表をしております。当社はコンピュータシステム開発を行う技術者集団で、私も新卒入社後から長年にわたって一技術者として数多くのシステム開発に携わって参りました。当時はまだインターネットが普及していなかったため電話回線にダイアルアップで接続し、今のような高速ではない遅い速度で遠隔地へデータを送信する仕組みを自ら設計・製造しておりました。

それが今では手のひらにある小さなデバイスで誰もが簡単に様々な情報へアクセスでき、いつでもどこでも誰とでも繋がっていられる事が当たり前の世の中になりました。情報技術（IT）の目まぐるしい発展により、この20年で本当に世の中は劇的に変革しました。

当社ではスマートデバイスを利活用した地域活性化や文化・観光産業の価値向上に寄与していく取組みに力を入れており、平成30年７月豪雨、いわゆる西日本豪雨の被災地である倉敷市真備町を含む高梁川流域の復興支援を目的としたイベントなども実施させて頂いており、一日も早い復興に向けて支援に力を入れています。

そして今、新型コロナウィルス感染症の蔓延により世の中は誰も予想していなかった事態になりました。先の見通せない不安な状況下にありますが、コロナ禍においてデジタル技術による変革がどんどん加速をしています。2020年度初頭「この２か月で２年分のDX（デジタルトランスフォーメーション）がなされた」と称されたように、デジタル技術の利活用により企業活動や我々の生活がどんどん変革していっています。

今後も更にいろいろな変革が必要となりますが、その変革でなくてはならないデジタル技術を扱える我々IT従事者の責務はより一層重要性が高まっていると感じております。

デジタル格差のない、デジタルで人々の生活が豊かになる、そのような世の中を、岡山から全国へ展開していく活動を今後も続けていきたいと考えています。

（よこみち・あきら。平成４年卒。津山市・津山西中学校出身）

献血ボランティア「Power of 献血♥」

令和元年10月26日（土）午後、県南支部の皆様にご協力をいただき、献血ルーム「ももたろう」にて開催しました。

60歳代の大先輩をはじめ、10名の方にご来場いただくとともに、激励のお電話も頂きました。

「人の役に立ったという喜びを一緒に♥」の企画でした。

献血ルーム館長様からは、台風19号で関東東北がダメージを受けている時にありがたいとお礼の言葉を頂きました。

新企画　「ワイン電車」

県南支部　新企画第２段、令和元年11月22日金曜日の夜１便しか走らない岡山電気軌道 MOMO の車輌半分を貸切り、路面電車の中でワインで乾杯。

～行程～

18時15分 . 電車到着、参加者全員集合。

18時30分 . 定刻出発と同時に乾杯しました。

まずは東山車庫までは、仕事を終えて帰る渋滞の車を横目に、ワイン片手に楽しくおしゃべり。

昭和47年卒片山様による雪印チーズの差し入れはワインにとても合いました。あっという間に東山に到着です。

東山車庫での休憩時間（トイレ休憩です）は、チャギントン電車を見学し岡山駅まで戻りました。

次は清輝橋までの折り返し。20時30分、トータル2時間の旅。この間、ワインがこぼれることもない上質な乗り心地。しかも生演奏付きでした。今回は１車輌でしたが、次回は支部会員で全車輌貸しきりにしてみたいものですね。

支部最新ニュースはホームページで

県南支部のホームページでは、支部の動向が分かる最新のニュースをアップしています。アドレスは https://www.tsukou-kennan.org/ です。支部の最新ニュースをお伝えする新着情報、同好会の活動報告、会報「県南クラブ」のバックナンバー紹介、支部のイベントを写真で紹介する「ギャラリー」などで構成しています。ぜひアクセスしてください。

支部事務局より

支部にご連絡がある方は、電話もしくは、県南支部ホームページ「お問い合わせ」ページを利用してお知らせくださるようお願いします。

岡山県立津山高等学校同窓会
岡山県南支部会報「県南クラブ」第26号
2021年２月25日発行
発行人　松本健五
発行所　津山高校同窓会県南支部
〒700-0982
岡山市北区中島田町2-3-19
株式会社システムズナカシマ 岡山支店気付
TEL. 090-2377-3950